

栃木県及び周辺の地震活動（令和5年5月）

【地震活動概況】

今期間の県内の最大震度は3でした。

今期間に県内で震度1以上を観測した地震は12回（前月9回）でした。このうち県内で震度3以上を観測した地震は1回（前月なし）でした。

【栃木県及び周辺の地震活動】

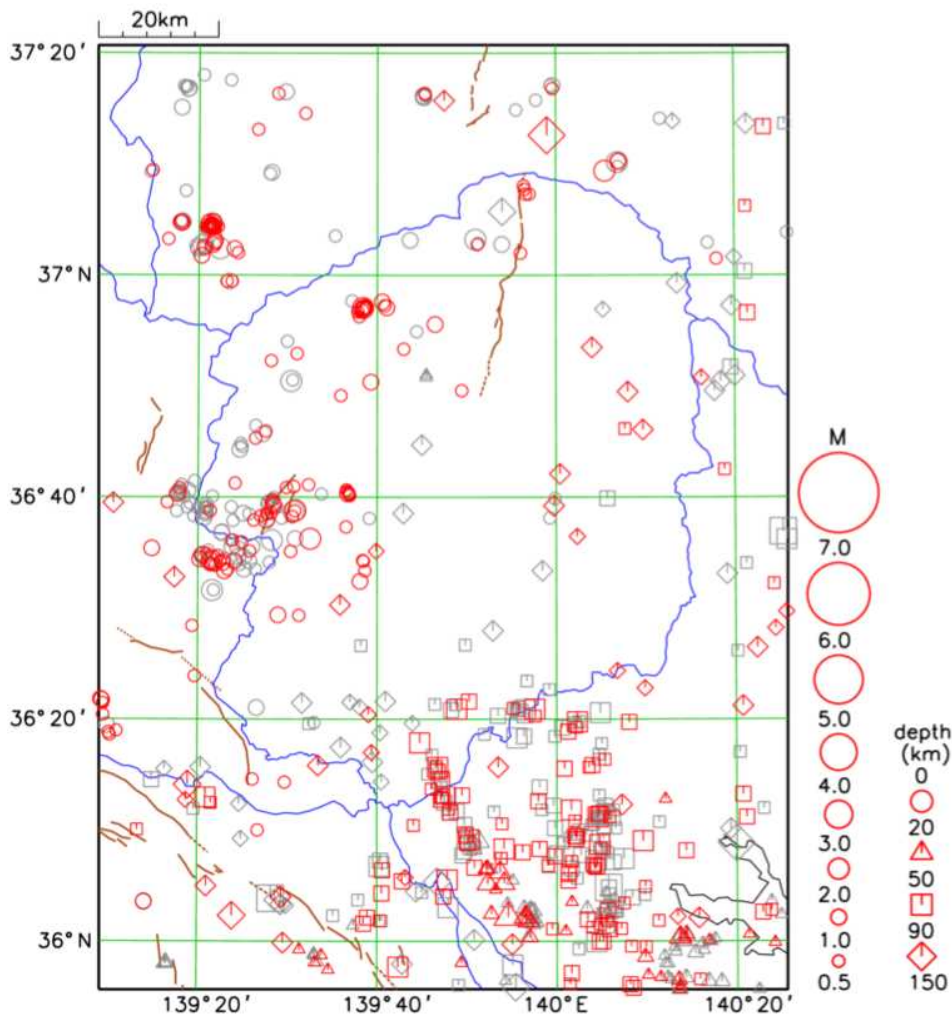


図1 震央分布図（2023年4月1日～2023年5月31日）

- ・この期間の地震活動と比較するため、前1ヶ月の地震活動を灰色で示しています。
- ・Mはマグニチュードで0.5以上、深さ（depth）は150kmまでの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがあります。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000(行政界・海岸線)』（国土地理院）を加工して作成しました。

【5月の県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ(km)	マグニチュード	国内最大震度	県内最大震度
	月日	時分							
1	5月1日	5時04分	茨城県沖	36° 26.2'	140° 38.5'	53	4.2	3	2
2	5月3日	5時34分	茨城県沖	36° 37.2'	140° 59.9'	46	4.0	2	1
3	5月5日	14時42分	能登半島沖	37° 32.3'	137° 18.2'	12	6.5	6強	2
		14時42分	石川県能登地方	37° 31.1'	137° 18.8'	15	5.4		
		14時45分	石川県能登地方	37° 30.6'	137° 15.9'	12	3.9		
		14時46分	石川県能登地方	37° 31.9'	137° 19.6'	12	3.1		
4	5月5日	21時58分	能登半島沖	37° 31.5'	137° 14.1'	14	5.9	5強	2
		21時59分	石川県能登地方	37° 31.7'	137° 15.1'	11	4.2		
5	5月8日	11時05分	福島県中通り	37° 12.6'	139° 59.0'	120	3.8	1	1
6	5月9日	5時14分	石川県能登地方	37° 31.2'	137° 18.6'	15	4.7	4	1
7	5月10日	11時20分	千葉県北西部	35° 43.5'	139° 59.7'	66	3.9	3	1
8	5月11日	4時16分	千葉県南部	35° 10.2'	140° 11.1'	40	5.2	5強	2
9	5月12日	15時05分	神奈川県西部	35° 32.7'	139° 13.5'	138	3.7	1	1
10	5月16日	19時21分	茨城県沖	36° 28.2'	140° 37.8'	67	3.8	2	1
11	5月23日	15時34分	茨城県南部	36° 02.1'	139° 54.5'	44	3.1	1	1
12	5月26日	19時03分	千葉県東方沖	35° 38.4'	140° 40.3'	50	6.2	5弱	3

- ・地震No. 3、4の地震は、短い時間の内に起きたため、地震と震度の分離ができませんでした。
- ・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については気象庁HP等で確認して下さい。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php>

【震央分布図範囲内の地震】

今期間中、県内で震度3以上を観測する地震などの目立った地震活動はありませんでした。

【震央分布図範囲外の地震】

1. 千葉県東方沖（地震No. 12）

26日19時03分に千葉県東方沖で発生した地震（深さ50km、M6.2）により、茨城県、千葉県で震度5弱を観測したほか、東北地方から東海地方にかけて震度3～1を観測しました。栃木県では小山市、真岡市、大田原市、下野市、益子町、市貝町、芳賀町、高根沢町で震度3を、17市町で震度2を観測しました（図2）。

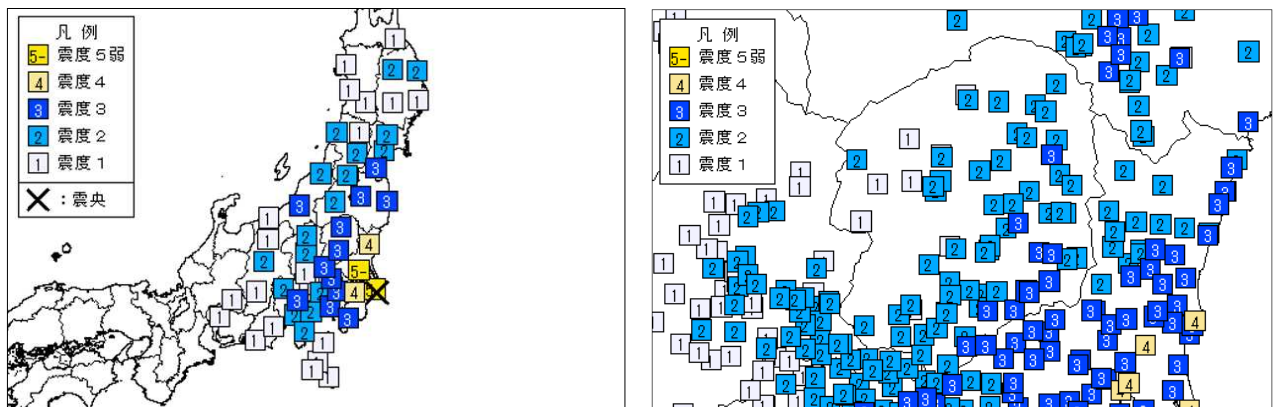


図2 26日19時03分 千葉県東方沖の地震 左図：地域震度 右図：地点震度、×：震央

【防災メモ】～ 緊急地震速報と海底地震計 ～

日本では地震計が陸上だけでなく、海底にも設置されていることをご存じでしょうか？

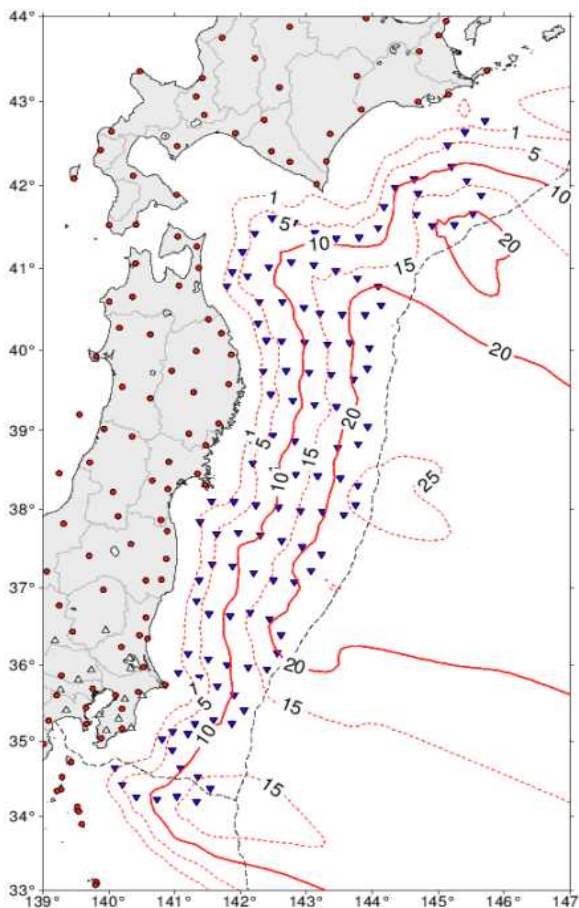
北海道から千葉県までの太平洋には千島海溝や日本海溝が存在しており、大きな津波を引き起こす海溝型の大地震がたびたび発生することが知られていますが、ここには国立研究開発法人防災科学技術研究所による海底地震津波観測網（以下S-net）が展開されています（図3左）。

S-netの各観測点は、地震計、水圧計（海底津波計）などで構成されていて、海域で発生する地震やそれに伴う津波の存在を陸域の観測点よりも早く検知することができ、素早く正確な防災情報の発表に大きな力を発揮しています。

令和元年6月27日からは、S-netのデータは緊急地震速報にも活用されています。図3左をみると、陸地から遠いところで起こる地震は最大25秒程度、警報発表が早くなることが期待できます。一方で、陸域に近いところで起きる地震については、依然として警報発表タイミングがS-net導入前とあまり変わらず、場合によっては警報が大きなゆれに間に合わない状況はあり得ます。

地震がどこでいつ起きるかは誰にもわかりません。突然発表される緊急地震速報を見聞きしたとき、その効果を最大限発揮できるよう、状況に応じた身を守る行動を考えておくことが必要です（図3右）。

令和5年6月15日には緊急地震速報の全国的な訓練が実施されます。市町村等が実施する防災行政無線の放送、行政機関の建物等における管内放送などが聞こえた場合、本番だと思って恥ずかしがらず、その場でとっさに身を守る行動をとってみましょう。



● 家庭では

頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難してください。
あわてて外に飛び出さないでください。
無理に火を消そうとしないでください。



● 人がおおぜいいる施設では

施設の係員の指示に従ってください。
落ち着いて行動し、あわてて出口には走り出さないでください。



DROP!

COVER!

HOLD ON!

図3 左図：S-netの配置図（気象庁報道発表資料（2019.06.21）より）

茶色の○は緊急地震速報に活用する陸上観測点、青色の▽はS-net観測点、赤の点線・実線はS-netデータを緊急地震速報に活用することで、計算上その場所で地震が起きた場合に何秒発表が早くなるかを示すコンター、海にある黒点線は海溝軸の位置を示す。

右上図：緊急地震速報を見聞きしたときにとるべき対応の一例（気象庁HPより）

右下図：安全確保行動1-2-3（提供：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議）

- ・ 日本海溝海底地震津波観測網 : S-net (防災科学技術研究所HP)
<https://www.seafloor.bosai.go.jp/S-net/>
- ・ 緊急地震速報を見聞きしたときは
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/koudou/koudou.html>
- ・ 緊急地震速報を活用した訓練について
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/kunren/kunren.html>
- ・ 日本シェイクアウト提国会議
<https://www.shakeout.jp/>

本資料についての問い合わせ先 : 宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260